光

第三十三輯

大正十三年七月

●光明祈願……同人
●重い筆を起して……西田天香
●死んで生きる……中桐確太郎

同人懺悔報恩の奉仕者
祈願不二の光明によれる生活
費用供養されたる淨財

●却初の第一人者……水上鐵治郎
●一燈園生活問答……まつした
●クリスト教社會主義史（二）……松下吉衛

一燈園・宣光社

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

光明祈願（暫定）

不二の光明は宇宙に遍滿する陽光の如し。物あり、之に觸れて色々の光を發す。光明祈願は即ち起稿者識界の現象に過ぎず。添すべく、削すべく、正さゞる可らず、改作また不可なし。暫定と名づくる所以なり。

不二の光明によりて新生し許されて生きむ。

我等は先づ不二の光明によりて復活新生し、神に委ね佛に養はれ他に障りなき生涯を送らざる可からず。

諸宗の眞髓を禮拜し歸一の大願に參ぜむ。

内外古今諸宗の眞髓を禮拜すれば、歸一の大願は正に左の如くなる可し。

通願　皆倶成就大圓覺

別願　將來世界眞平和

別に一宗を立てず、單に一宗に偏らず、古今聖者の光を仰ぎ德を頌し、その遺されたる事業を成就せんことを期す。

懺悔の爲に奉仕し報恩の爲に行乞せむ

世間一切の罪惡苦患、何人かその責を脱るゝことを得べき。願くば常に懺悔の心を持して十字街頭に奉仕し、菩提心によりて行乞し、以て法界成就の本願に副はんことを。

法爾の清規に隨ひ世諦を成ぜむ。

天眞法爾の戒相に則り、六度の行願に隨ひ、治生産業に即して眞道を行じ、永久眞平和を將來すべき生活法を實證し、以て在家俗諦を成就せんことを期す。

即ち天華香洞に歸り無相の樂園に逍遙せむ。

達觀すれば實にも此世は寂光の淨土、妙樂の天園、文明の隆興も進化の事象も乃至清規戒行も、此の見地よりすれば即ち一の遊戯三昧に過ぎず。憾むらくは箇中の消息、もとより言辭の髣髴し得る限りにあらざるを。暫らく此の實相に名けて天華香洞といふ。天華香洞の門、假りに名けて一燈園となす。道に志して尙自ら立つ能はざるもの、乃至老、病、幼者等の爲めに設けられたる一の化城とも見る可し。その存立は喜捨の淨財に成り、本園はその清規を守ることによりて許さる。

天華香洞に立ち、信託を受けたる財物事業の整理經營等に從ふを假りに名けて宣光社といふ。宣光社の目的は世間の執迷紛爭葛藤を根絕し、以て齊家、治國、平天下を期するにあり。

天華香洞と一燈園と宣光社と、三位にして一體、通じては即ち無相不二。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

重い筆を起して

西田天香

あゝ書きたくない！この思ひ、腹わたをしぼり出すやうにわいてくる。

あゝ話したくない！この思ひ、また講演する度におそわれるやうに浮んでくる。

何の爲めだろう？　言說と生命との距離の遠さを感じさゝれるからである。

生命のもられていない書きものと講演が、唯に生命に觸れないのみならず、徒らに疑情に焦慮と煩悶と混雜を多くせしめて、時間と物質をも徒消して、大損であることは、云ふに及ばぬことであるが。茲に比較する所謂言說とは、したゝか生命のもられたものにつゐて思ふのである。

生命のもられたものなら、即生命そのものでないか？といわれると、そふでないともいひ兼ねる。

併し聖書や經典は生命が澤山もられてあつても、それが生命とは事實に於てなつてはゐない。

キリストは何人にも澤山な話しをしたのであるまい。『起て、爾の足なへは癒つてゐる』といふたとき、病人は起つたでないか。それに、聖書を悉く暗誦しても一二度熱が高まるとすぐに醫者に走るものもある。親鸞上人は板處山を通はれた、上人を害しやうとした山伏の辨圓は、何時も道が上下

に違つてゐへず、遙に眺めて感化される種を下ろされたでないか。けれども上人の遺文をしたゝか讀み何十年何萬里の說教を聞ても、なをこの心を無條件彌陀に任しきれないものもある。聖書や經典や說敎が生命をもられたものでも、それが生命だとはいひ得ない。

今の時は、生命が要る、肉彈がある、おひかりが要る。觸れなばすぐに燒き盡せるものが要る。再現したものでは力が弱い。讀んで成程と感心してもそれが實行に移るまでには容易のことではない。聞いてソレダと得心しても足を擧げるにはまだ〳〵距離がある。

それは、讀んだのであるから、それは耳で聞いたのであるからである。それは書いたのであり、また話したのであるからである。からして双方に大きな間隙がある。その間隙と、その距離を俄かに充たし、また引よせるのは人格の力である。また受ける人が寄りつけばその人の人格である。是は多くの場合もはや筆と口とを超へてゐる何物かである。屹度其背ろに肉彈のひらめきがある。若しこれがなかつたなら、距離はやはり遠く間隙はひろい。それを思ふときに、言ばと筆との弱さを思ふ。そふして弱いものでは今の切迫した時の用にまどろつかしい。

何でも生命は實行からひらめいてくる。實行となるには肉彈にかぎる。燃へ移り燃へ移りするものが生命である。おひかりである。

今日は米國が移民法を實施する日であるそうな。前號中桐兄は一燈園のとるべき體度について說

かれてある。全く同感である。微泡の様に見へ消極のやうに見へ又退嬰的のやうになり無爲無策なりとのそゝりはあつてもとあるけれども、おひかりがへ燃うつれば、熱湯となり、積極となり、又進軍的のやうにもなり、そのうち不動金剛の天策が含んである。それと今おたがひは燃やし出すべきてある。燃やし出すにはその、そのへ燃て〳〵盡きぬおひかりにぶつゝからねばならぬ、そうしてそれは一燈園ては托鉢を火の柱の立つ様にせねばならぬ事になる。只に移民法案に限らない。更らに各種の方面を見渡すとどの問題もどの問題も、おひかりによれる深禱を改造を要する事のみてみたされてゐる。

それには私が燃へねばならぬ。光友も燃へねばならぬ。

どこから燃へたらよいか。東の方面にも必死となつて燃へていてもらふ。西の方面にも随分地下水行て燃へくゞつてゐてもらふ。地方の同人光友もいろ〳〵に燃へていて下さる。私が一番すまない様な氣持がする。

豫定の行動はハッキリときめてゐる。たゞその日その日の應援と頼まれごとに日がつぶれる、それも私には托鉢である、消へているのではない、が、こんな燃へ方では間に合はぬ。チリ〳〵になつてゐる。地上の人類の生活は、クサビのぬけた家の様に、白蟻の食ひあらした柱のやうに、蟻の巣をたゝいた様になつてゐるのに、多くはまだ往きつまつて夢を見てゐる位にしか思つてゐない。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

夢ではない、大事實である。世界大の問題より家庭小の問題迄、今や地獄に足をふみいれている。講演や説明や別に適當な人もあらう、燃へて〳〵燃へゆくことだと知るときに、筆が重くて間がぬけてくる。書きたいことも澤山ある、けれども燃へたい心に氣をとられる。讀んでほしゐよりは、來て見てほしい來て見るよりは足をあげて歩んでほしいといふ様な心持ちになる。何も一燈園の托鉢にに限つたことはない。名を別にして燃へている人が澤山ある。そこへいつて燃へてほしい。燃へているもの同志が集りたい。そうして燃へた火の柱がつゝたつやうにありたい。積んだりくづしたりするやう様な仕事を、成べく減らしまた休めて、生命のあることにかゝりたい。

經濟ならば經濟て、宗敎ならば宗敎て、敎育ならば敎育て、また其他一般のことごとにつゐて、此様な事ではいけないといふことは大概は承知してる筈である。それを意地やら無理を通してゐるのも少くない、否大方大部分てあらう。それらはさつさと赤裸々から歩むことである。自然の正しゐ美い生涯がある。一思ひに飾りを落そうではないかといひたい。

どうせ無くなつたものは無いのである。今大方は成金氣分だけ殘つて實質が空ふなり、生命をうしなつて理屈が多いといふ事は覆ひきれぬ事實である。日本全體が上下とも打あけて、一ペン跣足から燃へ出そうでないかともいひたい。(第十三頁へ)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

死んで生きる

（山中さんの一燈園觀を讀みて）

中桐確太郎

□七月號にも是非何か書いていたゞきたいのですが。

○いつも〳〵なまけて濟みません。實は六月號の山中さんの一燈園を拜讀して非常に興味を感じました。かねてより の自分の考へを練りかへし、まとめて見たいと存じてをつた問題が澤山ありますので、次の機會にとも思ひ立ちましたが、此頃は文字通りに寸暇なく暮してをりますので、どうぞ御免しを願ひたう存じます。

□まさまつたものは他日また御願ひすることゝして、斷片的にでも御話し下さいますまいか。

○それでは、練りきりもせず、まだまさまりもせぬ儘を幾分申上げて、御敎示を願ふことに致しませうか。

□どうぞ………。

一

先づ第一に『死んで生きる』といふことにつきて申上げて見ませう。『眞に生きるには死なねばならぬ』とは、よくいはるゝことでありますが、その用語の理解に伴うて、いろ〳〵の混雜が生ずるやうに思はれます。

此の語を肉體的にのみ解しますれば、『生きんが爲に死ぬ』と申すことは、不徹底なる虛僞になりませう。

尤も死ぬといふことを肉體的に解して、眞の生命は肉體の死後に於て始めて得らるべしとするものもありますが、肉體の死後のことは姑く之を措きまして、眞生命は必ずしも肉體の死後を待たず、現生に於ても得らるゝものであるといふ體驗上の事實よりして申します時は、生も死も肉體的のものでないといふことができます。普通に申す『死んで生きる』といふことも、此の如き理解に立つものでありまして、此の『生きる』といふことは、新たなる生命に生きることでありませう。私は之を假りに名づけて、肉的にでもなく、心的にでもなき、靈的の生命と申してをります。

山中さんが『生きることも期待せざる死に徹して始めて如法に生きる』と申されてをりますが、此等の語は如何に解すべきでありませうか。その期待せずといはるゝ生きるといふことは、如何なる意味に於てでもの、卽ち私の所謂る肉的にも、心的にも、また靈的にも生きることを期待せずとの意味でございませうが、肉的死を決して、偶然にも靈的に生きることもありますが、それは、暫く別として、凡そ志を立て修業する時、果して、只死せんが爲に死せんとするといふことはあり得ませうか。但し人間は身體を離れ得ざる如く、心識より全然脫することを得ぬものでありまして、肉的にても心的にてもなき靈的生命を得ることを目的と致してをりましても、その靈的生命を如實に把むことできず、とかくに心識によりて勝手に賦彩造作して、それに囚はれがちでありますから、修業の方法として、諸々の忘想雜念を拂ひ去り、只一意專念、身神の生死岸頭に立たしむることは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ありもしませうが、要するにそれは一つの方便であつて、究竟の目的は、如法に生きること、私の所謂る靈的生命を得さすることを、また得んことを期待しつゝあるに外ならぬと思ひます。即ち『死んで生きる』の生きるといふことは、靈的生命を得ることであり、而して、靈的生命を得んが爲には、先づ死なねばならぬのであります。

二

然らばその死ぬとは如何なる意味でありませう。此の場合それが肉體的の死を意味せぬことは申すまでもありません。山中さんが、死ぬるといふことの第一歩は『捨る』といふことであると申されたるは、正にその通りであると思ひます。

『捨てる。いはゆる捨身生活。……生活の外的様式に於て捨てきることは、私にも一應は易いことでありました。然し内の自身を捨てますことは、捨てようとするだけそれだけ我執を深くするのに、全く行きづまつてしまつたのでした。……捨て得ぬ自分。この自分が外樣の捨身生活に甘んじてゐることは妥協の外道に墮ちてゐるものと信じてゐます。それは私にとりまして似非の捨身であると思はれ、同時に自己を欺瞞する、少くとも主觀的僞善の大いなるものとも思はれました。到底一日も堪へられないことでした。……捨身者は外に於て無所有たると共に、殊に、自身の中心に於て、内にも更に聖潔に自己を捨てるべきであります。また實に、こゝにこそ「死」の體得が初めて第一歩

を踏み得られるのでありませう。内なる自我、これを捨てずして「死」は有り得ない。この事は無論以上の明白な事てあります。即ち捨身者は死なねばならぬ。内なる自我を十字架に釘けなければならぬ。我執を殺さなければならぬのが、捨身道の第一義でありませう。この第一義の願ひなくして、たゞに無所有の生活様式によるものを、それだけて捨身者であるとするならば、それは私の思ふ捨身とは餘りに隔てがある、こゝに同名の兩者に本質の差異を感じることてあります。』

と山中さんの申されたることは、如何にも深き御體驗よりの御言葉て、また、一燈園生活者に對する痛切なる御警告であると、殊に難有存じます。出家捨身は、所謂る懺悔奉仕の一形式であり、また修業學道の方法として肝要なるものであると思ひますが、所謂る『外様の捨身生活に甘じて』内なる我執を捨てることをおろそかに致しますことは、私共の殊に陥り易いことてありまして、私も毎々同人の集りなどに於ては、身の臭きをも忘れて、申さしてもらうてをることてあり、至極御同感てございます。たゞ山中さん『御自身の本質が、内的捨身に徹するには、不相應である自覺、この自覺を得ますまでに、私は相當の波瀾を經ました。なほ今も、この自覺の正しさを疑ひ得ずにをります』と仰せらるゝこと、如何にも深刻なる内心の御苦悶を偲ばしむる尊き御謙遜と、忝けなく拜しますが、此の御經驗よりして『捨て得ぬ』故に『また捨てるに及ばぬ』と申す結論に達することは如何なものてございませう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

三

先づ私は内的捨身に徹する、即ち死にきるといふことについて考へて見たいのであります。小悟十數捨てゝ捨てゝ捨て切つて、所謂る大死一番して、新しき生命に蘇り來るのであります。小悟十數回、大悟幾回などゝ申しますれば、最後の徹底は容易ならぬことでございませうが、要するに靈的生命に蘇るに外なりますまい。機根に應じ、因緣に隨ひて、蘇りし時の光景には種々の等差はありましても、眞に蘇りましたのならば、同じ靈的生命にいきてをるのであります。體質の差等により、病根の種類によりて、蘇りし後、直ちに活潑々地の躍動をする人もありませうし、また靜かに身神の保養に從ひ、徐ろに病根を拔き去るにつとめねばならぬ人もありませう。しかし如何に衰弱してをる人でも蘇つたといふことに於ては一つでありませう。『死ぬ』ことの目的は此の一つの靈的生命を得るのにありまして、眞に死ねたか否かは此の靈的生命を得たか否かによりて判ずべきであらうと思ひます。

然らば死に徹せねばならぬといふことは如何なることを意味するのでございませう。死に徹せねば得られぬ生命のあることを豫想するからでございませう。しからばその生命は如何なるものでありませうか。未だ死に徹し得ずと思うてをる立場よりは、未だ實驗し得ざる筈の境地でありますから、その人に取りては豫想的のものに過ぎぬといはねばなりません。已に豫想的でありますす以上、

その境地は、考へやうによりては、既に吾等の、縦しやかすかなりとも、實驗しつゝある靈的生命そのものであつて、到り得、歸來すれば別事なき盧山の煙雨、浙江の潮であるかも知れません。しかしながら是れは不可說の果分であつて、私共の言說を超越するものとして、姑く措くと致しませう。只その人の現實に感じ得ることは、未だ死に徹し得ずといふことであると致しませば、その所謂る死に徹するとは如何なることを意味するのでございませう。

もしその所謂る死に徹するといふことが、我執の根をことごとく斷絕し去り、執迷の雲全く消え去れる境地なりとするならば、これは現實の人間に於て決して有り得べからざることであると斷言して差支なき理由があると思ひます。人間は靈覺的體驗よりすれば、本來無限絕對なものであつて、無我圓滿の愛そのものでありますが、——而して之を靈覺することが靈的生命に入れる所以でありませうが——肉體と心識との中に現住せる個體としては、我執の薰習より全く脫すること能はず、執迷の暗雲に常にとざゝれつゝあることを免れぬと思ひます。此の如き纏縛より全く解脫せんことを求むるは、これ靈境に於て見るべきことを、現實界に於て求めんとするものにて、無理なる願ひと申さねばなりますまい。此の無理なる願ひが直ちに實現し得ざるが爲に惱み悶ゆるは、或は死といふ言葉の解釋に伴ふ拘泥より來るものとも見ることも得ませうが、更に深き一種の執着に出づるものであつて、畢竟するに人間の本性に存する無限向上心のあらはれであるとも解することが出來

ると思ひます。果してさうでありますならば、これは勿論咎むべきものではありませんが、これに執着することはいろ〳〵のさはりのもとゝなるものでありまして、これは御互に注意せねばならぬことゝ思ひます。

四

却説然らば、我執の根源を悉く取り去ることは、現實の人生に於ては不可能のことゝするならば、靈的生命を得ることも現生に於ては不可能事とすべきでありませうか、私は必ずしもさうではないと思ひます。私の體驗が淺薄で、反省も深刻ならぬが爲からかも知れませんが、一つの我執でも、純粹に之を斷ちきる時に、そこに靈的生命に蘇り、所謂る不二の光明に接することを得るものと思ひます。先きも申しましたやうに機根と因緣とによりて種々の差はありましても、生命は死とは全く異なり、光は暗とは判然別であります。迷雲暗澹として空を蔽ひましても、晝は夜とは相異なると同樣であります。只こゝに注意せねばならぬことは、その光甚だ微弱なるが故に、やゝもすれば向上心の滿足する所とならず、とかくに否定し去られんとするの傾あることであります。別語で申しますれば、向上心の執着の雲のために、その光が再び暗まさるゝことの往々あることであります。これは私共の殊に警戒せねばならぬことゝ思ひます。

大西操山先生の歌に

数ならぬ身にもうけつるたまものは
たまといだきてみがき上げてん

といふのがありますが、よし微弱なる光でありましても、やはり不二の光であります以上、私共は感謝して之を受け、存養助長のまことを致さねばなりませぬ。而してこれは素直なる純眞の心に自然に起り來る感情でありませう。即ちわれ等の現身は不完全なるものでありまして、種々なる我執の迷雲つねに徂徠し、折角の不二の光明を暗ましつゝあるのでありますが故に、その迷雲を去ることにつとめねばならぬのであります。一燈園の所謂の懺悔奉仕即ちそれでありまず。而してかくすることが、靈的生命に生きる所以の一つであり、また他方より見れば、學道修養の姿でもあります。修證不二とは、その深義はいづれにありとしても、一應は之をいふのであるやうにも思はれます。

修養などゝ申せば、何となく自力めくとして之を好まれぬ方もありませうが、捨てよといふことは、靈的生命より自然に起り來る内心の要求でありまして、捨つることは、その要求に素直に從ふに過ぎぬとも申されませう。もとより我慢執迷の深き身でありますれば、どうせ完全には捨て得ぬのでありますが、その捨て得ぬことに甘んぜず、捨て得る丈を捨てて、歩一歩、微かなる靈的生命ながら、それを長養し行かんとする生活は、微温妥協の非難はありましても、必ずしも僞善、欺瞞の生活といひ去るべきではないやうに存ぜられます。私は徹底的に捨て得ぬ身なることを感じはい

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

たしても、捨てるに及ばぬといふ感じには到達せぬやうに存せられます。自覺の未だ得られぬ故でありませうか。

此等のことに關して、なほ御伺ひしたいと存じますこともございますし、また山中さんが『捨身者に戀愛があり、捨身者が結婚するといふことは、根抵からの予盾てある』とせられましたその御論據につきても、殊に『一燈園に宣光社の交渉のあることを私は理想の上に慽む一人であります』との御言葉につきましては、私はかね／＼一燈園生活の存在理由は、俗諦成就の本願にあることゝ思うてをりますことゝて、一きは詳細なる御教示に預りたいと存じますが、初めに申上げましたやうな次第て、自分の考へを十分にまとめては伺ひ致すことができぬことを遺憾に存じます。

重い筆を起して （第四頁より）

大洗濯の時がきた、大掃除がきた、全動員てたすきをかけ、鉢巻半天で、身輕にいでたつて動こうてないかともいひたい。

その新生の光景の美しい事は、一燈園は種々の事實で證明される。私が一人そういふのでない、多くの方の色々の經驗で證據立てられる。

說明は力が弱い。筆の先きでも火はもへぬ。直ちにおひかりによつて動き出し燃へてゆくのである。

重い筆をこゝ迄走らせて、これてはすまぬと息をつゐた。この樣な事を書いてゐる間隙のあるのを申譯がないやうな氣持もする。――大正一三、七、一　偶感――

劫初の第一人者

水上鐵次郎

新しい種族が、叛逆の
大望をめぐらすにふさはしい
創始世界は、
忘れられた沼のやうに、
大きく、鈍色に光つて居る。

まだ、第一人者の脚下は、
底の地岩にとゞかない。趾をかゞめ、
蔓のやうに、爪先をのばしても、
足の裏にさはるのは、
軟く、抵抗のない泥だけである。
努めて、身を浮かせつゝ、
齒を喰ひしばつて、自信のない
一歩を踏み出す——前進だ！

半身は、既に疲れて、
胸と背とが、耐え難く痛む。
泥沼は、重い鐵鎖だ……深く
吐く息に、水面はドンヨリと皺む、
聲を呑んで泣きたい。

與へられない天の火は、
必ず、この力で、
奪つてやる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

一燈園生活問答（五）

まつした生

A。震災救護には、ずゐぶん、お骨折だつたさうですね。

B。えゝ、どれだけお役に立つたかわかりませんが、同人と一所に、あらん限りの力で、はたらかせてはもらひました。震災に對して私共のとつた態度については、立場を異にするに從つて、いろ〳〵批評もあることでせうが、たとひ、どんな惡評を受けやうと、あれつきり、私共には、もうなんにも出來なかつたのですから、だまつてあやまる外ありません。

A。そこまでいき切つて居れば、いゝですよ。私は、まだ、精かぎり根かぎり、命までうちこんで働いたといふ經驗もなく、またさうするに値する仕事も授かつて居りません。それを思ふと、ほんとにさびしくなります、もういゝ加減な年ですからね。

B。『何をなすか』については、私も可なりにがい經驗をなめさせられて來ました。自分で、かうしよう、あゝしようと、熱心に求めて居た間は、反つて分らないで、もうさういふ考へ方は止めにして、何なり自分に叶ふほどのことをさせてもらはうといふ立場にかはりましたところ、仕事が一生懸命にやれもし、また、不思議にも、自分の趣味に合つた事に自然かゝはるやうになつてくるものらしいです。トルストイでしたか『その時そこに居る人のために盡せ』と言つたのは。ほんとうだと思ひますね。人間が、それをしあへば、平和は來るんでせうに。

A。どうもさういふ氣になれないでしてね、サーヴすればいゝんだつてことは、わかりすぎる位、わかつてるんだけれど、たゞ行ひに轉

一歩することが、出來ないでゐるんです、そのくせ、現在の生活は行き詰つてゐてどうにも仕樣がないんですが。

B。おできは人におしてもらつた方がいゝのかも知れません。

A。なるほど、さういふ理合ひもありますね。

B。私のは知識生活に破綻して、自分で自分の始末がつかなくなつたものですから、先達の方の前に、敗殘の骸をどうなりよいやうに料理してほしいといつて、全く無條件に投げ出して了つたのです。冒險といへば此上なしの冒險でした、一生を賭けたのですもの。

A。………いくつの時でした。

B。さうですね、二十六の秋でしたらう。めづらしく小春日和のよく續いた歲でしてね、その歲は。………生活をかへる當時の苦しみは、ずゐぶん、ひどかつたてす。何しろ最高に値打づけてゐた知識生活が、土臺からくつがへつて了つて、まるで、立壁にぶつかつたやうなディレンマに陷つて、のくもひくもならなかつたのですから。………もう何の意味もなくなつた、むしろ苦痛でさへある圖書館通への途すがら、ノート幾冊かをかゝへて、街路ゆく人々の如何にも生き〳〵した、爲す筈のことを爲しつゝあるやうに見える自信ある足どりを眺めて、どんなに羨んだでせう。すが〳〵しい秋晴の陽が、反つて、ほんとうに呪はしかつたてす。その時分の日記をひろげますと、Young death, long love or madness. などといふ文字が欄外のそつちこちにやたらに書かれてあります。よく死なゝかつたと、自分ながら不思議なくらゐてす。

A。行くところまで行かなくちや駄目なんてせうね。私など地獄へも墮ち切れず、天上界には、無論、昇れず、中ぶらりんて、いつまでも浮ばれつこのない亡者なんてせう。………あなたは仕合せものだ。

B。さんざ我がまゝをし通して來ながら、罰らしい罰もうけて居ないのですから、惠まれてるといへば惠まれてるに相違ありませんが、

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

罪のなしくづしを、これからよほど一生懸命やらないとなりません。

A。あなた方のは、實際、やるんだから恐れ入る。………

B。いゝえ。どれだけの御奉公になつてゐますか、省みると、己れを責められることばかり多いのですが、出來る出來ないはお光まかせにして、先づ生活をかへて了つてゐるので、實は後にもひけないといつたやうな氣味もあるのです。

A。Y博士——御存知でせう——博士、この間、さういつてゞした、一燈園の人は行つてゐるのだからえらい。………鎌倉時代に新興宗派の活躍を見て以來、徳川幕府の施政に禍されてか、一つとして根底の深い宗教運動に接しないで明治にいたつてゐるが、明治から大正にかけてたゞ一つ注目すべき東洋的色彩の新宗教が出現した。それが一燈園だ。自分は一燈園に可なり多くを期待してゐるつて。

B。そんなにおつしやられますと、穴にでもはいりたい氣がします。とてもその任に堪へられさうには思ひませんが、內心の省察と世相の觀望とは、常に怠らないやうにして、少しでも過ちの減るやうに、又よりよい行き方に氣付かされたら即刻それに遷つて行かれるやうに心掛けて居ります。もと／＼、一燈園といふ一つの宗派があるわけではなく、かうした紛雜きはまる時代に善處する道を求めて生活にまで徹して實證して行くことを願ふ外、別段どうといふことはないのですから。實は、ついこの間、K博士のある論集を見せてもらつたところ、その中の一篇に眞宗教の具備すべき條件として、一　教理の組織が內在的超越神教であること、一　信仰が生活に具體化して盡きざる歡喜斷えざる努力となつてゐること、一　何人にも實行し得る普遍性を有すること、一　科學的批評に堪へない迷妄を含んでゐないこと、といふ四項目が擧げられてありましたが、私共の行き方を一々この項目に照らして考察して見たところ、どうやら及

第しさうなので、ほゝえましかつたです。

A。なるほど。

B。しかし、私共としては、眞宗教の具備すべき根本的條件の一つに先づ淨財生活を數へたいのです。

A。河上博士でしたか、資本主義制の社會には淨財なんてものはあり得ない、一かゞりの糸にも澤庵かうこの切れはしにも、勞働者や農夫の犧牲の血痕がなまなましくついてゐる、といふやうなことを何かの雜誌に書いてをられたのを讀んだことがありますが……

B。經濟的に生産品を觀察すれば、全く博士の言はれる通りだと思ひますが、實際、懺悔報恩を念じて奉仕しますと、衷心からの悦びで御供養くださる方のあることも打消されません。私共が不徳ですから、嚴正に批判して、かうした淨財によつてのみ生活できてるかどうかは疑問としても、少くとも願をこゝに置いて居り、省察して見て、許されて生きてゐるにちかい實感のする場合のあることは事實です。

A。さうすると、賃銀や俸給による生活や、事業を經營することなどは、どうなのです。

B。淨財生活の體驗をもつたものが、所謂入店（にってん）垂手の行き方で、さうした生活につくことは、一向差支ないばかりか、寧ろ進んで入るべきであつて、さうしてこそ初めて修行が活きるのだと思ひます。

A。なるほど、では、一燈園生活者として何職業でもやれるといふわけになりますね。

（つゞく）

○本號表紙題字は明慧上人眞筆、禪法要解よりいたゞきました。建久二年五月十九日午時とあり今津洪嶽氏の珍藏せらるゝ所なり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

クリスト教社會主義史（二）

松下吉衛

運動の具體化

一八四八年に於いては、クリスト教社會主義者の運動は未だ充分具體化の運びにいたらなかつた。彼等は時弊を憂ふるの餘り、何の豫備行動もなしに、戰を世に宣したのであつた。しかし、早晩、運動は具體化されねばならなかつた。

ラッドロウこそ其の使命を擔はされた。フランスで受けた彼れの教育は、あらゆる階級明偏見の囚はれから彼れを自由にした。

『民本政治』の刊行によつて、彼れは元のチアーチストや勞働階級の指導者の幾人かと相知るにいたり、リットル・オーモンド・ヤードの夜學校も亦彼れの交友關係を廣めるに役立つた。ヲールター・クーパー Walter Cooper と彼れとが相許す知己となつたのもかうした徑路を通してであつた。

クーパーは當時仕立屋を業として居たが、チアーチストとしても相當頭角を顯し、辯力を具へ、その性情は純眞そのものといふことが出來た。彼れの斡旋で勞働者の代表的人物とクリスト教社會主義者の幹部とが一堂に會して社會問題につき忌憚なき意見の交換をなす集會が催されることになつた。その第一回は四月二十三日（一八四九年）クランボーン喫茶店で開かれたが、非常な好結果で

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

あつたので、毎週これを續行することに相談がまとまつた。集會の行事は種々變化していつて、或る時には講演あり、或る時には討論あり、又或る時にはこれぞといふ定まつた話題のないこともあつた。あからさまなことがやがてこの集會の特色となつた。有力な新入會員も漸次加はつていつた。彼等の間から忠信なクリスト教社會主義戰士の幾人かが產れ出でたことは想像するに難くはないてあらう。

一八四九年夏、ラッドロウはパリにいつてゐた。彼れは刻苦勉勵して前年（一八四八年）の騷擾から產まれた社會改造の種々な試みを攻究した。就中、彼れの注意を最も惹いたのは、ルイ・ブランの有名な國民工場の企圖であつた。フランス政府によつて採用を見たものは、表面ルイ・ブランの考案に似せて實は彼れの聲望を下すための陷穽であつたから、勿論失敗に終つたけれど、民間の團體が計畫したものは一時相當の業績をあげるまでにいたつてゐたので、ラッドロウは親しくその工場を視察し、組織、規約、團體員の資格等に關する書類を蒐集した。この調査の結果は、クリスト教社會主義論文集第四冊として一八五〇年に出版された。之を基として彼れは勞働團體組織の具體案を作成し、ロンドンに歸つたときには萬端の準備すでに整ひたゞ實行の機會だに與へられゝばよいまでになつてゐた。

丁度この時分、モーニング・クロニクル紙記者ヘンリー・メーセユーが實地踏査の結果に成つた

『ロンドンの勞働事情及び貧民』の出版を見たが、英國全土の民は暴露された事實の前に戰慄した。種々なもみ消し策を弄する者もあつたがすべて無効に終つた。ついで、八、九の二ヶ月に亘つて貧民窟はコレラの大流行に見舞はれ之がために斃れるもの日々引きもきらず、保健設備の不完全はメーヒユーの報告を裏書きして餘りあつた。

クリスト敎社會主義者等は猛然として起つた。科學的訓練のあるマンスフイールドは直ちに惡疫流行地帶へ出掛けていつて衞生狀態の調査に從事した。ヲルシはバーモンドセーの檢疫官を勤めるやうになつた爲めに富裕な患家を失つてしまつた。キングスレー亦エヴアースレーの田舍から出馬して來てこの防疫隊の活動に加はり東西に奔走した。彼れが名著『オルトン・ロック』中の最も凄慘な個所はこの時の體驗を材料として描かれたものだといはれてゐる。彼れが防疫の仕事を終つて敎區に歸るや、人道的公憤の情熱は抑へんとして抑へ難く遂に彼れを驅つて『安價な衣服と危險』を書かしめた。これ彼れが最初にして又最も有名なパンフレツトであつて、モウリスの手を經て翌年正月出版されるや、同志の心はこれがために裁縫職救濟に集中されるにいたつた。

ラツドロウはこの時すでにフランスから歸つて來てゐた。彼れは同志のものに彼れが齎した協同生産組合の企圖を說明しその具體化の必要を勸說するに少なからぬ努力を拂つた。絕倫な精力と明敏な頭腦との所有者であつた彼れは時弊をながめて最早一刻も猶豫すべからずとなした。英國當時

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

の社會事情に考へ、又パリに於ける經驗にも學び、彼れの企圖を先づ裁縫職人の團體によつて實證せしめようと決心した。折よくも、かうした事業に經驗をもつたヲルター・クーパーが同志に加つてきてくれたので、彼れはクーパー及び他の一二の者の助力を得て、協同生産組合組織の具體案作成にかゝつた。たゞモウリスの沈重にして容易に動かうとしない態度は、可なりラッドロウ等を苛立たせたが、その年の暮ちかくなつて愈々機熟したと見てとるや、モーリスは俄に同志の新企圖に對して意想外な熱心を示すにいたつた。彼れは翌年一月二日附のキングスレーに與へた手紙の一節に書いてゐる『競爭が宇宙間の方則であるとされてゐるが、あれは僞りだ。今、吾々が言葉と實行とで之を證據だてる時機になつて來たのだ。これには協同生産事業をやる外に方法はないと思ふ。自分は傭者と被傭者との關係が眞正の道だとは考へることは出來ない。賃銀は欺瞞の外何物でもあるまい。神の聲は明かに吾々に告げて、現狀打破のために奮起すべく、又、何物にも先んじて人々に皆懺悔を求むべしとなしてゐる。これ裁縫工組合を組織するについての自分の考である。云々』

かうして一八五〇年一月八日設立者協會は五六の裁縫工及び一二の親方裁縫職を加へてモーリス宅で開かれた。種々實行上の事柄について意見の交換が行はれ、ヲルター・クーパーは一週二ポンドの有給支配人に推擧された。又創業費一切は同志の負擔といふことであつた。間もなく店と仕事場とはキャスル街三四番地に恰當なものが見附かり、一月十八日に三ケ年間のリーズが調印ずみとな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

つた。その間に、裁縫職人は公開の大會を開いて次の如き强硬な決議をした、『個人的利己的觀念が競爭制に具現されるや、英國產業を困惑せしむる禍根となつてゐるのである。これが救濟策は、共働共榮の生產團體を支配する四海同胞的クリスト敎的原理の外に求めることは出來ない。裁縫職組合の組織にはこの原理こそ適用されなければならない。』と。二月五日には十二名のものが協同生產組合に加盟した。同じき十一日にはもう仕事が始められてゐた。而して二ケ月後には從業員の數が二十四名の多きに達した。彼等の中に當時二十二才にしかならなかつた有名なゼラルド・マッセイの居たことは特筆しておかねばならない。彼れはチアーチストとして既に相當重きをなし、性來詩才に長けてゐたので後には文學的方面の活動を主にするやうになつた。

文書による運動　同志の運動が具體化されると共に機關誌の必要を感じてきた。ラッドロウは一日も早く週刊誌をおこしたいとて熱心に奔走した。キングスレーもこの擧には少なからぬ援助を與へた。しかし中々まとまらないので、當座の急に應ずべく小冊子の叢書を出すことになつた。その題名について種々の意見があつたが、明らさまに『クリスト敎社會主義論集』とする方が、『非社會的クリスト敎信者や非クリスト敎的社會主義者と吾々との立場の相違をハッキリすることになつてよからう。』とのモウリスの說に從ふことになつた。この論集は一八五〇年二月十九日に第一冊を出だし、爾後九ケ月間に第七冊まで刊行したが、第八冊が書かれたのは一ケ年中絕の後であつた。執

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

筆者はモウリス、ラッドロウ、ヒユーズ等であつた。各冊とも幾千かの發行部數を見たが、著者達の殆んど豫期しなかつた優れた素質の讀者を得られた。

協同組合の事業が愈々進展して全國各地に反響があるやうになつてからは、論集の刊行だけでは實際の必要に應ずることがどうしても出來ないので、ラッドロウ自ら起つて編輯主任となり、一八五〇年十一月二日、彼等の機關誌『クリスト教社會主義者（ゼ・クリスチャン・ソーシアリスト）』が創刊されるに至つた。これは週刊物で一片賣り（ペニ）であつた。發刊の趣旨は『商工業に對するクリスト教の實際的適用として協同組合の原理を徹底せしめる』にあると宣せられた。ラッドロウ自身が記事の大部分を書かなければならなかつたが、ダイスター、ファーニヴァル、ヒユーズ、キングスレー、マンスフィールド、モウリス、ショートター、ヲルシ、ニール諸氏も定つた寄書家となつてくれた。また毎號とも會報欄の附錄がついてをつて、これには設立者協會の行事や、ロンドンをはじめ國內海外に於ける組合の動靜が報ぜられてあつた。發行部數は初め一千五百部內外であつたが、翌年には倍加された。七月十五日發行の號から第二卷となしたのであるが、新しい寄書家の中にロバート・オーウエンを見出したことは興味がなくはなかつた。彼れはスプリング・グローヴから長篇の書翰を寄せて社會改革に適用された宿命論のために大いに辯ずるところあつたのである。

一八五一年末に近づいた頃、該誌は少くとも五千からの發行部數がなければ立ち行かないことが

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

わかつた。それまで同志達が互にやりくりして缺損を補つてきたのであるが、さう有り餘る資産を擁した者もゐなかつたので、無限に之を繼續していくことは到底不可能であつた。さうかといつて發行部數を急に增加さすことは出來ず、已むなく紙面を縮少するほか策の施すべきものがなかつた。それと同時に改題されて『組合新聞』といふ名になつた。しかし、さうしても經營難は去らなかつた。遂に萬策つきて一八五二年六月二十八日終刊號を出さねばならなくなつた。

かくて『クリスト教社會主義者』の生命は僅々二十ヶ月の短日月にすぎなかつたけれど、同志の人達が時間と精力とを捧げ、なけなしの資金四千圓からを之がために投じた犧牲は、決して酬いられずにはゐなかつた。彼等はその提唱する協同組合の原理が生產及分配問題に適用されて好成績をあげつゝあるのを見た。又彼等自身だけの努力の結果によつて、協同組合が法律の認めるところとなつたのを見た。將又ほんとうに勞働議會の實質を具へた協同組合大會がロンドンに於ける彼等の會館で開催されるのを見た。彼等は要するに能ふ限りをなしたのである。顧みて悔いるところないまでに最善を盡したのである。ラッドロウは終刊の挨拶の結語に書いてゐる、『吾々はそんなに言葉をきく要はない、もつとうんと働かう。』と。彼等は、ほんとに善く働いたのである。

彼等の間には又『クリスト教社會主義論集』刊行の企もあつた。その第一冊はモウリスの書いたもので一八五一年五月に出た。第二冊にはキングスレーの『安價な衣服と危險』が充てられ、第三

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

冊にはラッドロウの『勞働と貧民』が選ばれた。これは續いて刊行される筈であつたが、モウリスとラッドロウ等の間に、原稿を選定する標準について意見の齟齬を來したので遂にそれなりになつて了つた。たゞ幹部會の每月の例會には必ず講演があることになつてゐたので、其の缺を補ふことが出來なくはなかつた。

この外、パンフレットの印行は實に驚くべき數にのぼつた。その最終のものは一八五三年に公にされてゐる。

尙特筆しなければならないのは、キングスレーの不朽の名著『オルトン・ロック』と『イースト』のことである。殊に前者は、出版業者が出版を引受けず、カーライルの援助を得て漸く世に出づることになつたほどのものであるが、一八五〇年八月かくて一度刊行されるや、英國の全社會にたゞならぬ波瀾を捲き起し、一流の新聞雜誌は筆を揃へて批判を試み或は痛罵し或は贊同し喧々囂々を極めた。『クリスト敎社會主義』の創刊號は四十五部もロンドンの各新聞社に寄贈されたのであるがどの新聞一つとして單なる紹介文さへ載せてくれなかつたのと何といふ相違であらう。キングスレーの名があがると共に、クリスト敎社會主義そのものゝ存在も一般の關心するところとなつた。『オルトン、ロック』は發行後一年と少しばかりの間に三版を重ねた。本書の內容は說明するまでもなくロンドンの裁縫職人の言語に絕した生活環境を描いたものである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

『イースト』は、初めフレーザー誌に一八四八年中連載されたものに訂正を加へて、『オルトン・ロック』發行の翌年即ち一八五一年に單行本として公にされたのである。これは當時に於ける英國農業勞働者の悲慘な生活狀態を彼れ獨特の描寫の妙技をもつて表現し、人間として到底かうした生活に堪へられるものでなく、參政權運動の早晩起り來る理を說いたものである。この書の社會から受けた好評にキングスレーは大いに勵まされ、その主張を實際問題に具現しようとして、五月二十八日（一八五一年）の幹部會の例會に『協同組合の原理及び方策の農業に對する適用』といふ題で二時半に亘る長講をなした。聽衆は熱心に傾聽した。講演が印行されたときも世評は大變によかつた。しかし同志の人達によつては之が具體化はとう〳〵出來ずにしまつた。

初期の協同生産組合

クリスト教社會主義運動の全歷史に於いても、最初の八ケの協同生産組合が相繼いで組織された事情は特筆に値する。設立者達（プロモーター）は協同生産の原理の空論でないことを實證し業績を擧げ得べき方法を見出ださんと欲して、ラッドロウがパリで見聞して得たさのみ豐富でない智識を主なる據とするほか何の指針もなく事業に着手したのであつたが、彼等はみな若くまた貧しくして生活のために職をとらなければならなかつたから、創業諸經費の工面についても少なからぬ困難を感じた。フランス人とイギリス人とでは自ら國民性がちがつてゐるので、彼れの經驗を此れにそのまゝ適用してもうまく行く筈はなく、漸く立てた考案もすぐまた訂正せねばならず、最初

一月程は滑かに運んだ方法も翌月にはもう失敗に終るといふ風で、彼等の苦心經營は實に尋常ではなかつた。

かくて彼等の協同事業が兎も角もある定つた組織をなすに至つたのは裁縫職生產組合が出來てからのことであつた。設立者といつても、單に每週集會を催して業務についての意見の交換とか、それよりは宗敎的社會的目的の談議をこととした同志の人達に過ぎなかつたので、かうした漠とした團體でも、一つか二つの組合なら何とか督監していく道もないではなかつたが、漸次組合の數の增加につれて經營上商策上の種々な問題が續發し、勢ひ事務的組織の必要なことが明白に感ぜられるやうになつた。

當時、協會の有給書記として忠直にして敏腕の聞え高かつたチアールス・サレーは、以前パリにあつて親しく協同組合事業に關與したこともあつたが、社會改革の方法として暴力の効果乏しきを確認しラッドロウの一友からの心をこめた推薦狀を齎してロンドンに渡來したのであつた。設立者達は少なからぬ歡びをもつて彼れを迎へた。然しながら所謂クリスチアンでなかつた彼れは、業務のことは單に業務のこととして取扱つてその成績をあげるに專らならんとした。そこでモウリスに建言して組織化の急務を力說して止まなかつた。これは明かにモウリスの歡ばないところであつた。彼れにしては珍しい激越な手紙がこのことについてラッドロウあてに書かれた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF ILLINOIS AT URBANA-CHAMPAIGN

『……私の制度嫌ひについて何とでも言ふがよい。私の意味する制度とは善い結果を生まんがために惡の力を結合することである。神の支配し給ふ秩序は人爲の制度とはどうしても相容れないやうに思はれる。クリスト教社會主義とは私の見るところではこの神の秩序の主張に外ならない。宏大な機構の力を以て之を紊らんとする企圖は、たとひそれが勞働の組織と呼ばれやうと中央委員會と名づけられやうと其他如何なる名稱であらうと、私としては反對せざるを得ない…。』

しかしラッドロウは、かうした理想主義的見解の價値を充分認めながらも、組合を形つくる以上、組合員の資格や責務も規定されなければならず、その支配人たるものの權限も明確を欠いてゐてはならず、若し協會が諸種の勞働者を網羅しなければならないやうならその構成や機能も決定される筈であることは、寧ろ常識上の事柄であるとして、モウリスの説に容易く從はうとしなかつた。ために、約二週間といふもの設立者達とその首領との決裂はどうしても避けがたいやうに觀測された。兩者の間に文書の往復と意見の交換と可なりに行はれてから、モウリスの方で讓歩して中央委員會だけは設けることになつたけれど、尙彼れはその職務の單に業務上のことに限られ而も之に對する設立者會議の否認權をも殘存せしめねばならないと主張した。

サリーは、かくて、四月早々規約草案の編成に着手した。出來あがつたものにはラッドロウがずゐぶん筆を加へた。これは一章毎に設立者達の周到な討議に附せられたが、さう大した訂正もなし

にその贊成を得られた。六月にはこれが『クリスト敎社會主義論集第五』として發行されたが、內容は協會の組織、(ロ)組合結合の規約、(ハ)組合の標準的規則　の各項を含んでゐた。今その大要について述べることは必ずしも無駄ではあるまい。

協會は、設定者であると組合員であるとを問はず、この運動參加者すべてによつて組織されてゐた。每月第一と第二の水曜日に本部で例會が催され、第一水曜日には事業についての協議が行はれ、第二水曜日には講演懇談があつた。これは一般には公開されなかつたので、『クリスト敎社會主義者』誌の讀者から、度々、公開するやうにとの抗議があつた。講演の多くは出版になつた。

設立者協會には、設立者會と中央委員會との二機關があつた。

設立者會の任務といふのは、協會と組合、組合と一般社會との間の一切の交渉の處理、事業資金の募集と管理、及びクリスト敎の商工業に於ける實際的適用たる協同組合の原理の普及等であつた。會員は設立者の中から互選し、通常會員十二名、名譽會員若干名といふ規定であり、議長は常にモーリスが務めた。又、必要に應じて一名もしくは數名の有給書記を置いた。每週金曜日に本部で集會が催され、會員二名づゝ交代に每日事務所に出勤する筈になつてゐた。

中央委員會は協同生産組合員又は設立者の承認した勞働組合員の代表機關であつて、すべての參加組合の支配人又はその代理人、組合員互選の委員、及び設立者會の任命支給を受けてゐる書記と

から成つてをり、毎週月曜日夜、開會された。各加盟組合から、もう一人の委員を會議に列せしめてもよい規定があつたが、これは發言權だけで票決權は與へられなかつた。この特權は設立者會員全部及びその友人にまで及ぼされた。中央委員會の任務は、加盟組合相互の關係を規定すること、設立者會の同意を得て加盟組合と一般社會との關係を規定すること、新たに加盟せんとする組合のあるとき設立者會と協力してその交渉にあたること、規約各條項が加盟組合によつて適當に運用されてゐるかどうかを調べること等であつた。

組合は支配人、議長、會計、書記及び一定數の組合員から成つてゐる組合自身の管理部の左右するところであつた。支配人は一定の限度を超えた購入又はその契約をなすにつき、或は營業上の指圖をなす場合、管理部に相談しなければならなかつた。管理部はまた中央委員會の配下に置かるべき組合製品の價格を決定することが出來た。しかし實行上の權能は支配人の手にあつた。注文を取るのも、原料の準備を指圖するのも、仕事を割當てるのも、製品を販賣し發送しその代金を受取るのも支配人であつた。支配人の選任は自治の精神を重んじて原則として組合員の掌中におかれた。工場長は議長が勤めた、彼れは工場内の職務怠慢者に科料を課す權利を與へられた。

新たに組合員になるには、一定の期間見習を勤めなければならない規定であつた。見習中でも、組合員なみに支給され尙利益分配までも受けられるのであるが、組合の管理については一切關與す

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

ることは許されなかつた。最初の中、徒弟の收用といふことは何等考慮を拂はれなかつたけれど、間もなくその計畫が中央委員會によつて立てられ設立者會の協賛を得た。

全規約中、最も苦心を要したのは、何といつても、賃銀代りに拂はるべき支給及び利益分配に關する條項であつた。すべてに對する絕對平等の賃銀といふ制度は、當時の社會狀態としてふさはしくないとの見解から、パリの同志によつて採用された原理とは異なつて、次の方策が實施された。

一　各組合員はその從事してをる業務の慣習に從つて、時間制によらうと出來高拂によらうと、正しく一日働いたことに對して正しく一日分の報酬が得られるやう支給されること。そしてその支給は之を受取る者の熟練と精力に比例されなければならない。

二　收益は、經常費、借入金の辨濟その利拂、事業擴張等に要する部分を引去つた殘餘を、六ヶ月毎に勤勞時間を標準として各組合員に分つべきこと。

かうして才能と勤勞と二つながら適當に報いられるやうにしたいといふのが、同志達の希望であつた。

尙、注目に値する條項としては下記のごときものがあつた。即ち

組合員のすべての作業は能ふかぎり組合內の仕事場でなされねばならないこと。日曜日休業のこと。中央委員會、設立者會の同意なきかぎり、食事時間を除いて、勞働時間は日々十時間を越えて

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

はならないこと。各組合員は本部の維持費として毎週一片づゝ醵出すべきこと。組合は決して政治運動の手段になつてはならいこと、但し組合員個人としては行動全く自由であること。組合相互の又は組合員支配人間の爭は兩方の側から協會員を仲裁者に立てゝきめてもらふこと。又、組合間に利害の衝突がある場合には、中央委員會が之を判決すること、但し、中央委員中その判決に異議のものがあれば、更に設立者會に訴へることが出來る。組合解散の場合には利益金の五分ノ四を協會に交附し、殘り五分ノ一を組合員に分與すること。協會加盟を許された組合は準則に從つて規約を作り、その謄しと組合員名簿とを中央委員會に提出しなければならない。

以上は出來るだけの周到な用意をもつて起草され、設立者會が幾朝か掛つて一句一句愼重審議の結果に成つたものである。出來あがつたところから見ると、フランスに於ける企圖に基づいてゐることは勿論であるが、サレーの實際的經驗とラッドロウの法律上の智識とモウリスの理想主義との合成の觀がある。これは、當時の法律上、私人的組合ともつかず株式會社ともつかなかつたので、合法的團體と認められないために、會員の德義心に信頼する外はなく、從つて時に經濟上の紛爭がないではなかつた。

以下、初期に於ける各組合の實況について述べて見よう。

キャッスル街裁縫職組合は、仕事場の場所柄もよく、支配人のヲルター・クーパーに對する個人

的信頼から設立者より三百ポンドの借入も出來たので、萬事好都合に運び、創業早々業務は非常に繁榮した。店開きとして三ケ月間に組合員は十二名から三十五名に增加した。純益も規約通りに處分され、賃銀のごときも同業のどの店に比べても多額に支拂はれてゐた。たゞ禍の種子をなしたのは、組合員について何等の詮衡をしなかつたことゝ、支配人ヲルター・クーパーが主義宣傳のために講演旅行に出掛けてゐて始終留守がちであつたことである。一八五〇年九月、クーパーは例の如くバリ其他の工業都市へ講演に出掛けて行つたので、その留守中、管理部が彼れの事務を見なければならなかつたが、偶然にも會計帳簿狀態が極めて不整理になつてゐるのを發見した。そこには何等不正の認むべきはなかつたのであるが、組合初期の支配人によく見られた簿記術の無智によつて生せしめられた少なからぬ過誤があつた。管理部は彼れに手紙して急速の歸りを促した。彼れは之に侮辱を感じて管理部に抗議した。仲裁機關の勞もそのかひなく兩者は遂に妥協點を見出すことが出來ないで、組合は一旦解散の運命にあつて、改めてクーパーによつて組織されることになつた。再組織後は幸ひに平和と繁榮とが續き、一八五一年三月七日には創業記念の祝典が擧げられ、越えて一八五二年五月には、勞働階級中產階級の需要を目當をするバロー支店の開業を見るにいたつた。支店は本店に劣らない營業成績を示した。

初期に於ける八組合のうち三ケまでは靴製造工の組織したものであつたが、豫期されなかつた種

々の困難が個人的の失策や製靴業そのものゝ性質から生じた爲めに、成績は一番ひどかつた。その組合といふのは、一八五〇年四月に出來た『淑女紳士用靴製造工組合』『紳士用堅牢靴製造工組合』及び同年六月組織になつた『ウエストエンド長靴工組合』とであつた。

一八五〇年五月には、『建築工組合』が業務を開始した。經濟方面は順調に運んだのであるが、組合員にかうした團體生活をするだけの精神的用意が缺けてゐた爲めに、創立第二年の二月早々解散を宣せねばならないハメに立ち至つた。支配人のジョセフ・ピッカードは悲痛な言葉をのこしてゐる、『組合は單に一つ工場に人々が集合したといふだけのものであつてはならない。そこには沒我の精神、誇を誇としない謙虛な態度、相互の信頼、主義に對する確信がなければならないのに、組合員にして此等の美點を具へた者は稀有であつた。』と。組合員等は協會の規約が法律上有効でないことを知つてゐたので、解散當時の純益金二百三十五ポンドを處分するのに、その五分の四を協會に納める筈になつてゐる規約を無視し、僅に十五ポンドを贈つた外、他はすべて各自の間に分配してしまつた。その分配に當つても熟練工は二人分の分前を强要してきかなかつた。それでも、組合員の一部は猶のこつてピッカードを支配人に仰ぎ『北ロンドン建築工組合』を興して相當業績を擧げることが出來た。

協同組合の組織をとつて最大の成功を改めたものは、恐らく、建築業であつたてあらう。但し協

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

會側からは、建築工組合は資金さへ提供すれば斯業に從事しない者にまで組合員たる資格を與へて株式會社と何等選ぶところがない方式をとるとて屢抗議があつた。

ピムリコ建築工組合は、ある地方的ストライキの苦い經驗の結果、一八五〇年七月四日に組織された。これは、組合員の中に、協同的生活を實證して世の進運に貢献しようとの健氣な理想をいだいた有能の士が五六人をつたので、活躍大いに見るべきものがあつた。組合員同士のために協同販賣店を開いたのも此の組合が魁であつた。本組合員は、また、ピムリコ庶民會館の設立に非常な盡力をなした。協會の月々催される協議會、公開講演會に最も重きをなしたのも彼等であつた。時あつて、彼等の爲すところは、その所屬組合本位に過ぎて、四海同胞の高遠な理想よりしては批評に堪へないものもないではなかつたが、さしも多くの協同組合運動の先驅者をして敗殘の悲運に陷らしめた彼の嫉視紛爭の惡德からは、彼等は解放されてゐた。創業當時は事務所のごときも極めてさゝやかなものであつたが、業務の繁榮につれて擴張され、一八五二年七月には、四十六名の組合員を數へ五千七百ポンドを越ゆる資産を有するまでにいたつた。

此等の外、なほ印刷工組合と製パン組合とがあつたのであるが、協同組合運動の實證には大して役立たなかつた。

前記八組合と相並んで、一八五〇年二月十八日創設された北ロンドン裁縫婦組合といふのがあ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

る。これは協會に加盟はしてゐたが、八人の婦人から成つてゐる特別委員會の支配下に屬し、モウリス婦人がその書記を勤めた。仕事場、店、寄宿舍のついてゐる廣大な通風のよい家屋で業務は開始された。その家賃はモウリス夫妻の責任といふことであつた。この家にハリエット・ハンソン夫人が監督者であり又家族の一員として二十の虐げられ來つた婦人勞働者と共に新しい生活を始めたのである。家具や材料を購入するために五百ポンドほどの資金を調達することが出來た。かくて開業の運びとなり、婦人帽と服裝の注文に應ずる旨廣告された。注文が殺到して間に合はないといふやうなことのない限り、組合員の勞働時間は一日十時間を越えないやうにとの規定であつた。各の受ける給與はその仕事高に比例し、また店と仕事場との極僅かな使用料を各から納めてもらつた。獨身婦人は一週一シリング六ペンスで附屬寄宿舍に起臥することが出來た。監督は有給であり、委員會の直屬といふことであつた。委員は毎日一人づゝ必らず組合へ出勤した。收益の一部は借金の元利拂に充てられ、その殘額が年四回に組合員へ分配された。組合員の數は創業の當時九名であつたのが、一八五二年七月には二十六名を算した。本組合は、かうして、一八五三年の秋までは繁榮を續けたのであるが、どうしたものが、それから、組合員數が漸減して行つて遂に閉店の已むなきにいたつた。その家屋は、後に、勞働者大學に使用された。

此の組合と幾分相似た點があつて組織を異にしたものに、一八五一年の秋、エルクローズ・スク

エーアに設けられた『東ロンドン裁縫婦家庭工場』といふのがある。これはラッドロウの計畫に基づいたものであつて、被搾取婦人勞働者の極貧なものを救濟するのと、仁心ある富者達の慈善事業を有效にしようとの二つの目的をもつてゐた。シアフッベリ卿をはじめ男女幾人かの有名な慈善家が、協會設立者達と共に、委員會を組織したので、後援は充分に得られるし、本組合によつて慈善事業に新生面が開かれるだらうと少なからず期待されたのであるが、愈々實行に取り掛らうとする段にいたり、慈善家側からの後援は更に得られず、ラッドロウはじめ非常に失望して、折角の企圖も有名無實に終つて了つた。これは此の種の試みの最初にして又最後のものであつた。此の經驗は同志達に教ふるところが少なくなく、その勞働者大學を創設するに當つて、彼等が斷乎として『有名な慈慈家』の援助を斥けたのも理由のないことではなかつた。

協同組合の原理を悲慘な婦人勞働者のために適用せんとするもう一つの試みは、一八五二年の春、ニールの盡力で設立された『婦人ギルド』であつた。この組合はガラス彩色法についての特許權をもつてゐた。之れを組合員に教授するために隨分な時間が費された。七月までには從業員二十七名を數へるにいたつた。翌一八五三年の七月には資本金が約二千ポンドまでに增加したが、事業の前途は思はしくないやうに報告された。支配人には、住宅改善の先驅者として後年有名になつたオクタヴィア・ヒル孃の母親であるカロリン・サウスウッド・ヒル夫人が選任されてゐたのであるが、

何等かの事情て、一八五五年やめなければならなくなり、組合もその次ぐ年に解散になつたやうてある。ともあれ、本組合が仲立をなしてオクタヴィア・ヒルと設立者とが相知るにいたつたことは特筆に値する。後年オクタヴィアはラッドロウに手紙して言うてゐる『私の住宅改善事業の基因は、若くしてクリスト教社會主義者の群れと親しくした時代につくられたのである。』と。

ロンドンに於ける協同組合運動は概略以上の如くであつたが、之を各地方に及ぼさんとする同志達の努力も忘れられてはならない。若しクリスト教社會主義に社會の進運に貢献した方面があつたとするなら、その一は確かに啓蒙運動にあつた。設立者達は早くから次のやうな考を懐いてゐた、『もし自分達の運動が一つの興味ある地方的試み以上のものであり、その提唱する方式が公平にためされるには、ひとり首都にのみ之を限るべきてない。』と。當時、産業の諸中心地特に北部地方にあつて、勞働問題は最もやかましく論議されてをり、その範圍に於いても深刻なる點に於いても、到底ロンドンなどの比ではなかつた。されば、クリスト教社會主義者等が地方の宣傳運動に成功するためには、グラスゴウ、マンチエスターはじめ主要工業地に於ける勞働者階級の注意を集めることが先決問題であつた。然るに、指導者の中、一人として是等の中心地と密接な關係をもつてゐたものがなく、又勞働者達の要求についても親しく知つてゐるものもなかつたので、彼等は運動を如何にして開始すべきか戸迷ひの觀があつたのであるが、ロイド・ジョーンが身を挺して彼等の仲間に加は

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

り來ると共に、この缺陷は補はれた。彼れは講演旅行には少なからぬ經驗を有してをり、オーエンとの關係やサルフードに於ける居住によつて、ロチデールやランカシアー州の各都市の協同組合運動と交渉があつた。

一八五〇年の夏、宣傳運動に着手するやう同志から依囑され、彼れは講演と訪問地の豫定を整へてその年の秋から冬にかけて大飛躍を試みた。ヲーター・クーパーは助手として此の運動に參加した。効果は忽ちに擧がつた。生産、分配の協同組合運動が結合を見るにいたつたのも、彼等の努力の賜と見ることが出來よう。設立者等の贊同によつて、協同組合史上、相當重んぜらるべき二ケの地方的組合の設立も見た。その一つはサウザンプトン裁縫職組合で、もう一つは、最初サルフードの帽子製造工十人によつて發起され後にマンチエスター帽子製造工組合の名で知られたものである。前のものは、一八五二年六月に發表された報告書によれば、その時分までは萬事非常に都合よく運んで來たことゝ信ぜられるけれど、間もなく支配人の給料のことでゴタ〳〵が起つて、支配人のバラードは組合を去り、數軒を隔てゝ同業の店を開く等のことまであつた。これは程なく悲境に陷つた。後のものは、此の種の組合中で最も永續し一八七三年にはまだ存在してゐた。支配人はダイソンが始めから終りまで勤めた。

此等の二組合の叙述だけでは、彼等の宣傳が産業社會に於ける協同運動に及ぼした影響を如實に

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

示すには足りない。當時は、實に、英國全般に亘つて、協會所屬の組合の方式に似た試みが企てられたのである。『クリスト教社會主義』や『組合雜誌』は、各地に於ける共鳴者模倣者からの質問、申出、報告、論議等が隨分な頁數を占めたゐた。ベスナル。グリーンの絹布織工、バンベリのフラシ天織工、ガラシールズの羅紗工、サルフオードのキヤラコ織工、シエフイードの鋸製造工、サンダーランドの石工、——此等は、外面上、協會と無關係にはなつてゐたが、經營の實際に於いては、兩者間に近密な連絡があつたのである。又、五六の都では、設立者會と殆ど同一な組織をもつた團體がつくられた。その代表的なものは、ベリに於ける『一般勞働救濟協會』と『ハリフアツクス勞働者協同協會』とであつた。裁縫工組合にいたつては、クーパーの雄辯に魅せられ、恰も雨後の筍のやうに、そつちこちに引續いて生れた。

此等の協同組合は、恐らく、不成功に終つたものが多く、外觀上、何の果實もつけずに凋落したかのやうに見えもするが、併し、協同組合の理想を廣く世に紹介するに少なからず役立つたことは今更いふまでもなく、又、現存の社會的秩序のみを以てしては到底社會生活の圓滿なる進展の期し難き理由を闡明し、クリスト教社會主義者が最も大切な先驅者の役割を務めた産業上政治上の改革運動の地ならしになみならぬ貢献をなしたものといふことが出來よう。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF ILLINOIS AT
URBANA-CHAMPAIGN

三部作

聖杯

（第一部）
（神を審判く）

谷口雅春著

自分の足掛七年に亘る宗教的生活は殆ど此の三部作の完成のためばかりに存在したと云つても過言ではない。自分は自分の半生の宗教的思索と體驗との全部を此の作に打ち込んだのである。此の作に於て自分の扱はうとしゐる問題は可成りに廣汎で最も本質的なものばかりである。果して神は存在するか、佛と神とは一致するか、愛の神と造り主とは一致するか、神は何のために人間を此の地上につくり、何を人間に約束したか。此の聖約の盃が「聖杯」である。生めよ殖えよ地に滿てよとて造られし人間天賦の性慾の遂行が何故吾々に醜悪に感じられるのか、生を享け樂しむために造られし人間が、何故互ひに殺生しなければならぬやうに造られてゐるのか……大凡此等の問題に解決を與へるために自分は聖書中より叛逆者ユダを拉し來つて、それに奇しき物語の美装をまとはしめた。本書普及のため、しばらく書店との交渉を絶ち、著者直接實費にて發送する。（著者）

講讀申込所　神戸市夢野町三丁目四〇ノ一　著者

（アンカツト假綴美本・三九六頁・實費一圓八十錢・送料十八錢）